

入札公告（建設工事）

次のとおり一般競争入札に付します。

平成27年5月15日

分任支出負担行為担当官

沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所長 与那覇 忍

1 工事概要

- (1) 工事名 平成27年度福地ダム受変電設備外設置工事（電子入札対象案件）
- (2) 工事場所 沖縄県国頭郡東村字川田中上原地先 福地ダム外1箇所
- (3) 工事内容

【工 種】	【種 別】	【細 別】	【数 量】
準備工			1 式
電気設備	電気設備(機器)	高圧気中負荷開閉器	1 台
		高圧受電盤	1 面
		き電盤	1 面
		所内変圧機盤	1 面
		発動発電設備（川上無線中継所）	1 台
		受変電備設設置工	1 式
		発動発電設備設置工（川上無線中継所）	1 式
		配管・配線工	1 式
		撤去工	1 式
		仮設工	1 式
後片付け		工場輸送工	1 式
			1 式

- (4) 工期 契約締結の翌日から平成28年1月29日まで。
- (5) 本工事は、施工計画と技術資料（以下「技術資料等」という。）を受け付け、価格以外の要素と価格を総合的に評価して落札者を決定する総合評価方式の適用工事のうち、品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況を確認するとともに、施工内容を確実に実現できるかどうかについて審査・評価を行う施工体制確認型総合評価方式の試行工事である。
- (6) 本工事は、地元企業を1次下請（県内元請企業を含む）として活用することを評価する地元1次下請活用比率評価の試行工事である。
- (7) 本工事は、沖縄県内に本店を有する企業から資材を調達する比率を評価する試行工事である。
- (8) 本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年法律第104号）に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。

- (9) 本工事は、契約締結後に施工方法等の提案を受け付ける契約後V E方式の試行工事である。ただし、総合評価に係る範囲は対象としない。
- (10) 本工事は、資料の提出、入札を電子入札システムで行う対象工事である。
なお、電子入札システムにより難しいものは、発注者の承諾を得た場合に限り紙入札方式に変えることができる。
- (11) 本工事は原則として、当該入札の執行において入札執行回数は2回を限度とし、それまでに落札者がいないときは、予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第99条の2の規定に基づく随意契約には移行しない。
- (12) 本工事は、入札時に工事費内訳書の提出（**業務委託料がある場合は、業務委託料の内訳書も含む。**）を義務付ける試行工事である。
- (13) 本工事は、開発建設部及び開発建設部の事務所（港湾空港関係を除く。）における過去2年度間の低入札工事の工事成績が一定の点数未満の場合は総合評価の得点を減点する試行工事である。
- (14) 本工事は、適切で確実な施工を行う能力を有しているかを確認する施工能力評価型I型の試行工事である。
- (15) 本工事は、現場経験の少ない技術者の技術向上を図るため、主任技術者又は監理技術者を専任で補助する技術者（以下、専任補助者という。）を配置することができる試行工事である。

2 競争参加資格

次に掲げる条件を全て満たしている有資格業者であること。

- (1) 予決令第70条及び第71条の規定に該当しない者であること。
- (2) 沖縄総合事務局における平成27・28年度一般競争参加資格のうち「受変電設備工事」の認定を受けていること。（会社更生法（平成14年法律第154号）に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成11年法律第225号）に基づき再生手続開始の申立てがなされている者については、手続開始の決定後、沖縄総合事務局長が別に定める手続に基づく一般競争参加資格の再認定を受けていること。）。
- (3) 会社更生法に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者（上記(2)の再認定を受けた者を除く。）でないこと。
- (4) 過去15年度間（平成12年度～平成26年度）に、次に掲げる工事を元請けとして完成・引渡しが完了した次の要件を満たす同種工事の施工実績を有すること（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）。ただし、経常建設共同企業体（以下「経常JV」という。）にあっては、構成員の1社以上が次に掲げる施工実績を有すること。

なお、当該実績が沖縄総合事務局開発建設部及び開発建設部の事務所（港湾空港関係を除く。）並びに国土交通省が発注した工事のうち次に示す実績にあっては、工事成績評定点が入札説明書に示す点数未満のものを除く。

次の要件を満たす施工実績を有すること。

- ・同種工事：受変電設備を設置した施工実績。

・より同種工事：高圧受変電設備を設置した施工実績。

※より同種工事とは、申請する同種工事の施工実績の中において「より同種性の高い工事」の施工実績を優位に評価するためのものであり、より同種工事の実績がなくとも参加資格がないとして失格になるものではない。

※施工実績が確認できる証明資料（CORINS資料又は、特記仕様書・数量総括表・図面・契約書等の写し）を添付すること。

(5) 本工事における設備の製作に係る設計管理、工程管理、検査・試験に関する自らの体制を有すること。また、当該設備について、障害時の支援体制、保守部品の供給体制並びに発注者からの技術的内容についての問い合わせ等に対応する体制を証明できること。

(6) 次に掲げる基準を満たす主任技術者又は監理技術者を当該工事に専任で配置（工場製作除く）できること。ただし、請負代金が2,500万円以上の場合は、現地での設置期間については専任で配置（工場製作除く）できること。また、配置予定技術者が、現在他の工事に従事している場合、専任を要する期間において、当該工事に専任で配置できること。なお、専任補助者を配置する場合は専任補助者も主任技術者又は監理技術者と同様な要件を満たすこと。要件を満たさない場合は、入札への参加を認めない。

① 建設業法第26条に規定する者であり、次のいずれかに該当すること。

1級若しくは2級電気工事施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。「同等以上の資格を有する者」とは次のとおりとする。

(ア) 技術士(電気電子部門又は総合技術監理部門(選択科目を「電気電子部門」に係るものとする場合に限る。))の資格を有する者。

(イ) 第1種電気工事士、第2種電気工事士（ただし、電気工事に関し3年以上の実務経験を有する者。）

(ウ) 1～3種電気主任技術者（ただし、電気工事に関し5年以上の実務経験を有する者。）

(エ) 電気工学又は電気通信工学に関する学科を卒業後、高等学校（旧実業学校を含む。）は5年以上、大学（旧大学を含む。）もしくは、高等専門学校（旧専門学校を含む。）は3年以上の電気工事の実務経験を有する者。

(オ) 電気工事に関し、10年以上の実務の経験を有する者。

② 過去15年度間（平成12年度～平成26年度）に上記(4)に掲げる工事の現場に従事した経験を有する者であること。（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）。ただし、経常JVにあつては、構成員のうち1社の配置予定技術者が施工実績を有すること。

また、配置予定技術者として複数の候補技術者を申請できるが、この場合は配置予定技術者の資格・実績等が一番低いと判断された者で評価する。

なお、当該工事の経験が沖縄総合事務局開発建設部及び国土交通省が発注した工事のうち入札説明書に示すものに係る工事の経験である場合にあつては、工事成績評定点が入札説明書に示す点数未満のものを除く。

③ 監理技術者にあつては、監理技術者資格者証（電気）及び監理技術者講習修了証

を有する者であること。

- ④ ①について(イ)～(オ)の内容で申請する場合の実務経験については、経歴書(様式自由)を提出すること。
- (7) 沖縄総合事務局開発建設部及び開発建設部の事務所(港湾空港関係を除く。)が発注した工事で当該工種「受変電設備工事」における過去2年度の工事成績評定点の平均点が2年連続で60点未満でないこと。
- (8) 競争参加資格確認申請書(以下「申請書」という。)及び競争参加資格確認資料(以下「資料」という。)の提出期限の日から開札の時までの期間に、沖縄総合事務局長から、「沖縄総合事務局の工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」(昭和60年8月6日付け総会計第642号)に基づく指名停止を受けていないこと。
- (9) 上記1(1)に示した工事に係る設計業務等の受託者、又は当該受託者(出向元及び派遣元含む。)と資本若しくは人事面(出向及び派遣含む。)において関連がある建設業者でないこと。(入札説明書参照。)
- (10) 入札に参加しようとする者の間に資本関係又は人的関係がないこと。(資本関係又は人的関係がある者の全てが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く。)(入札説明書参照。)
- (11) 施工計画が適正であること。(提出された施工計画「工程管理」に関わる技術的所見の中で不適格な事項があればその企業は不合格とする。)
- (12) 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずる者として、沖縄総合事務局発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。
- (13) 競争参加資格確認のため、添付を義務付けた資料の添付がない場合、あるいは記載内容の確認ができない場合は、書類不備により、参加資格の確認ができないものとして不合格とする。

3 総合評価に関する事項

(1) 入札の評価に関する基準

総合評価に関する評価項目は、次のとおりとするが詳細については、入札説明書による。

- ・企業の能力等
- ・配置予定技術者の能力等
- ・施工計画
- ・施工体制(品質確保の実効性、施工体制確保の確実性)を評価する。

(2) 総合評価の方法

① 標準点

入札説明書等に記載された要求要件を実現できると認められた場合には標準点として100点を与える。

② 加算点

技術資料の内容に応じて得点を与え、加算点を与える。なお、加算点の最高点は40点とする。

③ 施工体制評価点

施工体制に関する資料の内容に応じて、施工体制評価点を与える。

なお、施工体制評価点の最高点は30点（品質確保の実効性15点、施工体制確保の確実性15点）とする。

④ 総合評価

価格及び技術資料等に係る総合評価は、予定価格の制限の範囲内の入札参加者について、上記①、②及び③により得られる標準点、加算点及び施工体制評価点の合計を、当該入札者の入札価格で除して得た数値（以下「評価値」という。）をもって行う。

(3) ヒアリングの実施（施工体制の審査）

入札参加者のうち、その申込みに係る価格が予決令第85条に基づく調査基準価格（入札説明書の別紙を参照のこと。）に満たない者については、どのように施工体制を構築し、それが施工内容の実現確実性の向上につながるかを審査するため、原則として、開札後速やかに、ヒアリングを実施する。また、併せて、調査基準価格を超える者についてもヒアリング（電話での確認行為）を実施する。

なお、ヒアリングの日時、場所、資料等は入札説明書による。

(4) 落札者の決定方法

落札者の決定は、次に掲げるの①から③の要件に該当する者のうち、上記(2)によって算出された評価値の最も高い者を落札者とする。

なお、評価値の最も高い者が2者以上あるときは、当該者にくじを引かせて落札者を決定する。

① 入札価格が予決令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であること。

② 評価値が標準点を予定価格で除した数値に対して下回らないこと。

③ 提出した技術資料等及び入札価格に基づき、本工事を確実に実現できること。

(5) 評価内容の担保

技術資料等に提示された施工計画及び県内企業下請活用比率表、地元資材活用比率表、登録基幹技能者の活用期間に記載された内容を遵守することについては、契約書に記載するものとする。受注者の責により評価した内容が満足できない場合は、工事成績評定を減じる措置を行う。

(6) その他の詳細については入札説明書による。

4 入札手続等

(1) 担当部局

〒905-0019 沖縄県名護市大北3丁目19番8号

沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所 総務課 専門職

電話0980-53-2442（代表）（内線）224

(2) 入札説明書の交付期間、場所及び方法

① 交付期限：平成27年5月15日（金）から平成27年6月22日（月）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日9時00分から17時15分まで。

② 場所及び方法：入札説明書には、電子入札システムにより交付する。ただし、やむを得ない事由により、書面による交付を希望する場合は、上記(1)にて交付するので、あらかじめ連絡すること。

なお、希望者には、郵送等による交付も行うので申し出ること。この場合において、送料は希望者の負担とする。

(3) 申請書及び技術資料等の提出期間、場所及び方法

① 提出期限：平成27年5月18日（月）から平成27年5月26日（火）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日9時00分から17時15分まで。

② 場所及び方法：電子入札システムにより提出を行うこと。

なお、申請書及び技術資料等が、3MBを超える場合の提出方法については、入札説明書による。ただし、発注者の承諾を得た場合は、平成27年5月18日（月）から平成27年5月26日（火）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日9時00分から17時15分まで、上記4(1)に持参又は郵送（書留郵便に限る。提出期限内必着。）により提出すること。

(4) 入札及び開札の日時及び場所並びに入札書の提出方法

入札書は、電子入札システムにより提出すること。（ただし、発注者の承諾を得た場合は紙により持参すること。）

① 日時：入札の締め切りは、平成27年6月22日（月）15時00分。開札は、平成27年6月24日（水）10時00分

② 場所：紙による持参の場合は、上記(1)に持参すること。開札は、沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所 入札室 にて行う。

5 その他

(1) 手続において使用する言語及び通貨

日本語及び日本国通貨に限る。

(2) 入札保証金及び契約保証金

① 入札保証金：免除。

② 契約保証金：納付（保管金の取扱店 日本銀行那覇支店、名護代理店）。ただし、利付国債の提供（取扱官庁 沖縄総合事務局開発建設部）又は金融機関若しくは保証事業会社の保証（取扱官庁 沖縄総合事務局開発建設部）をもって契約保証金の納付に代えることができる。また、公共工事履行保証証券による保証を付し、又は履行保証保険契約の締結を行った場合は、契約保証金を免除する。

(3) 入札の無効

本公告に示した競争参加資格のない者のした入札、申請書又は技術資料等に虚偽の記載をした者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする。

(4) 落札者の決定方法

予定価格の制限の範囲内で、上記3に定める方法に従い、評価値の最も高い者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある

著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内で、上記3に定める方法によって算出された評価値をもって入札した他の者のうち、評価値の最も高い者を落札者とすることがある。

なお、落札者となるべき者の入札価格が予決令第85条に基づく調査基準価格を下回る場合は、予決令第86条の調査を行うものとする。（入札説明書参照。）。

(5) 配置予定技術者の確認

落札者決定後、専任の配置予定技術者の配置が義務付けられている工事において、CORINS等により配置予定技術者の専任制違反の事実が確認された場合、契約を結ばないことがある。

なお、種々の状況からやむを得ないものとして承認された場合のほかは、申請書の差し替えは認められない。

(6) 専任の配置予定技術者の配置が義務付けられている工事において、調査基準価格を下回った価格をもって契約する場合においては、配置予定技術者とは別に同等の要件を満たす技術者の配置を求めることがある（入札説明書参照。）。

(7) 本工事に経常JVとして申請書を提出した場合、その構成員は、単体有資格業者として申請書を提出することはできない。

(8) 手続における交渉の有無

無。

(9) 契約書作成の要否

要。

(10) 当該工事に直接関連する他の工事の請負契約を当該工事の請負契約の相手方との随意契約により締結する予定の有無

無。

(11) 関連情報を入手するための照会窓口

上記4(1)に同じ。

(12) 契約締結後の技術提案

契約締結後、請負者は、設計図書に定める工事目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額を低減することを可能とする施工方法等に係る設計図書の変更について、発注者に提案することができる。ただし、総合評価に係る技術提案の範囲は対象としない。提案が適正と認められた場合には、設計図書を変更し、必要があると認められる場合には請負代金額の変更を行うものとする。詳細は特記仕様書等による。

(13) 一般競争参加資格の認定を受けていない者の参加

上記2(2)に掲げる一般競争参加資格の認定を受けていない者も、上記4(3)により申請書及び技術資料等を提出することができるが、競争に参加するためには開札の時に、当該資格の認定を受け、かつ、競争参加資格の確認を受けていなければならない。

(14) 本工事は、資料の提出、入札を電子入札システムで行うものであり、対応についての詳細は、入札説明書による。

(15) その他、詳細については入札説明書による。